

早春の風を胸いっぱい吸い込んで――。

北野小学校長 丹羽 郁人

私には息子二人、娘一人の、三人の子供がいます。三人とも二十歳を過ぎています。

子供たちが幼いころ、よく私は子供たちの様子をビデオテープに録画していました。撮影してから振り返って観たことはなかったのですが、先日、そのテープを、妻と一緒に観ました。

休みの日には、公園や動物園へ子供たちをよく遊びに連れていきました。遊具で遊ぶ、キリンを見る、ゴーカートに乗る。その様子を、私はビデオにしっかりと撮っていました。遊具で遊びながら、兄弟でキャツキャツと笑う顔。ゴーカートを運転する真剣な顔。キリンを見つめる好奇心いっぱいの顔。その子供たちの輝いた顔、顔、顔……。嬉しくなりました。

しかし、ビデオはそれだけではなかったのです。妻は、子供たちの普段の様子もビデオにおさめてくれました。悔しくて泣いた。怒れておもちやを投げつけた。地団太を踏んで要求した。そして、その中に、初めて言葉らしきことを発した。つかまりながらも、一人で立てた。歩こうと足を前に出した。ビデオからうつしだされるその一瞬一瞬が、尊く、愛おしく、ビデオを見ながら、妻と二人で泣きました。

毎日接していると気付かないことも多いけれど、子供たちは、確実に成長しているんだなあ。ビデオからうつし出された子供たちの姿は、私たちにそう教えてくれました。



六年生の子たちは六年間、この北野小学校に通いました。

一年生のころは、通学の時、「ママがいいよう〜!」と泣き叫んだこともあったかもしれませんが。友達と喧嘩ばかりして、涙を見せたこともあったかもしれませんが。それでも、はじめての経験をいっぱいしました。平仮名も片仮名もたくさん漢字も書けるようになりまし。たし算もひき算もかけ算も、わり算だってできるようにになりました。友達とぶつかりながらも、そのかわり方や妥協点の見つけ方も学んでいきました。



立ち止まっているように見えて、子供たちは確実に成長しているのです。六年間の費やした時間だけ、力はつき、知恵が生まれ、優しい心は育ちました。さまざま個性の子供がいて教室は楽しいのです。個性と個性がぶつかり、子供たちは学んでいくのです。ぶつかるのだから、問題は発生します。そこが学びの場となるのです。トラブルを学びに変え、あの子たちは着実に歩んできました。子供たちは、着実に成長しているのです。

私事ですが、この三月三十一日をもって、定年退職となります。三十八年間を勤めました。大きな病気や怪我もなく、勤めあげることができました。丈夫な身体に産んでくれた今は亡き両親に感謝しています。

生身の子供相手には、生身の教師が毎日対応するのが最上です。毎日が幸せでありました。

そして、この北野小学校で最終を迎えることができ、本当に幸せです。子供たちは純真で、素直でありました。保護者の皆様は、心温かく、親身に寄り添っていただけました。そして、学区の皆様は、力強く、頼りがいがありました。感謝いたします。

別れはつらいのですが、私も、新たな舞台（ステージ）へ歩めたらと思っ

ています。

三月は別れの時です。在校生は学級と別れます。卒業生は、学校との別れとなります。

もうすぐ早春の風が吹きます。北野小学校で学んだすべての子供たち。北野小学校の風を胸いっぱい吸い込んで、次への舞台（ステージ）へ進んでほしい。

早春の風が吹く。その風はあたたかい。大丈夫。

早春の風を胸いっぱい吸い込んで――。さあ、それぞれの道を歩んでゆきなさい。

(二〇二三・三・二四)

